

実績報告書

助成事業細目	タレント発掘・一貫指導育成事業
事業名	タレント育成のためのJOC競技別強化拠点を利用したモデルケーストレセン構築事業
事業実施期間	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
実施した事業の内容 (種目・期間・場所・対象者等をそれぞれ具体的に記載すること。)	<p>【実施事業の内容】</p> <p>事業実施にまつわる打ち合わせ：5月3日（福岡県福岡市）</p> <p>3ブロック合同西日本トレセン事業：第1回7月8日～10日、第2回9月23日～25日、第3回10月29日～31日、3月2日～4日</p> <p>兵庫ブロックトレセン事業：第1回8月27日～28日、第2回10月15日～16日、第3回11月3日～6日（4日は除く）、第4回2月4日～5日、第5回2月11日～12日、第6回2月18日～19日</p> <p>愛媛ブロックトレセン事業：第1回5月28日～29日、第2回8月4日～7日、第3回8月12日～14日、第4回12月23日～25日、第5回1月14日～15日</p> <p>島根ブロックトレセン事業：第1回5月20日～21日、第2回8月15日～17日、第3回11月4日～6日、第4回2月4日～5日</p> <hr/> <p>事業の第三者への委任(委託等)の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>
事業の成果	<p>本事業を実施することにより、一貫指導体制を構築し、競技者育成プログラムの根幹を成す事業であるトレセン事業を実行する事が可能となった。これにより統一した理念での競技者育成が可能となり、中央と地方における指導者間や競技者間の人的ネットワークが形成され、より良い競技者育成環境構築のための知見を得る事が出来た。</p>
事業に対する評価	<p>本事業はより多数の開催、多数の人員を持って実施する予定であったが、日本テニス協会の財務状態が東日本大震災の影響によって悪化、協会負担予算の確保が困難となったため、事業規模を縮小しての実施となった。このため当初予定よりも回数や派遣人員は減少したが、おおむね事業実施の目的は果たせた物と思われる。</p>
ロゴマーク等の表示方法	<p><input type="checkbox"/> ホームページ上の表示 <input checked="" type="checkbox"/> 活動場所での掲示(看板等による)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 印刷物への表示 <input type="checkbox"/> 取得物品への表示</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>
事業の実施状況及び実施結果並びに助成金の使途に関する情報の公開方法	<p>本事業の実施状況に関して日本テニス協会が主催する最大の指導者講習会である「JTAカンファレンス2012」において情報提供を行った。また各トレセンにおける活動の様子はJTAホームページならびにJTA保有サイトによって伝達された。</p>
備考	



H23年度totoタレント発掘事業

(タレント育成のためのJOC競技別強化拠点を利用したモデルケーストレセン構築事業)

報告書



(財) 日本テニス協会
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン
H23年度事業要項

事業の目的

本事業はJTA競技者育成プログラムの一部として制定された強化指導指針に記載されているトレーニングセンターシステム構築における「地域（エリア）および都道府県（ブロック）トレーニングセンター構想」のモデルケースを構築するための事業である。

JTA競技者育成プログラムはその基本目標において「高い競技能力を持ち」加えて「人間的にも資質の高い」競技者を輩出する事を目的としており、このモデルケーストレセン構築事業の実施目的もこれに倣う物となる。

事業内容

○管轄および予算

本事業は財団法人日本テニス協会（JTA）強化本部ナショナルチームの管轄によって実施され、加えて強化本部技術・サイエンス・タレント発掘委員会が実施協力する。

予算措置としてはナショナルチーム予算としてH23年度JTA予算に組み入れられており、事業全体の支出予算額としてはH23年度でおおよそ918万円を予定。この内4分の3の額に当たる688万円ほどが（独）日本スポーツ振興センターが管理運営するスポーツ振興くじ（toto）助成事業として助成され、収入となる予定である。（付則資料2, 3を参照）

○事業構造

本事業は参加する3つのブロックトレセンにナショナルチームよりスタッフを定期的に派遣する「**ブロックトレセン派遣事業**」および参加3ブロックが集合して合宿形式でのトレセン活動を行う「**西日本トレセン開催事業**」の二つの事業を持って構成する。

○事業1：ブロックトレセン派遣事業

本事業において、対象とするブロックは「兵庫」「愛媛」「島根」の3県と設定する。この3つのブロックトレセンに対してナショナルチームから必要とされるスタッフを派遣し、ブロックトレセンにおける選手育成活動への補助を行う。（3ブロックの選出理由に関しては付則資料1を参照の事）

ブロックトレセンにおける選手の選出においては各ブロックにおいて規定されている選手の選出基準に倣い、ナショナルチームスタッフ主担当者との間で協議を行い最終的に決定を行う。

この事業においてJTAが負担する経費は「ナショナルチームスタッフ派遣経費（交通費・宿泊費・謝金）」「ブロック側代表コーチの経費（交通費・宿泊費・謝金）×1名分」「コートレンタル費用」「ボール費用」となる。

○事業2：西日本トレセン開催事業

上記、対象とするブロックトレセンにおける優秀な選手を定期的に兵庫県三木市に設置されているブルボンビーンズドームに集約し、3県合同の合宿形式でのトレセンを開催する。この活動においてもナショナルチームから必要とされるスタッフの派遣を行う。西日本トレセンの参加選手は各ブロック代表コーチとナショナルチーム代表者の間で合議を行い決定する。

この事業においてJTAが負担する経費は「ナショナルチームスタッフの派遣経費（交通費・宿泊費・謝金）」「ブロック側代表コーチの経費（交通費・宿泊費・謝金）×2名分」「ブロック側代表選手の経費（交通費、宿泊代）原則男女2名ずつ計4名分」「コートレンタル費用」「ボール費用」となる

サポートスタッフ

関係するスタッフは以下の通りである。

☆全体責任者およびスーパーバイザー **竹内 映二**

(デビスカップチーム監督/JTA強化本部技術サイエンスタレント発掘委員会委員長)

☆コーチ **駒田 政史** (ジュニアフェド杯代表チーム監督/S級コーチ)

☆コーチ **岩本 功** (ジュニアデビス杯代表チーム監督/S級コーチ)

☆コーチ **中山 芳徳** (ワールドジュニア女子代表チーム監督/S級コーチ)

他 S級コーチ資格を持つナショナルコーチおよびコーチを担当スタッフとして配置予定

☆愛媛ブロックトレセン代表者 **重松 建宏** (愛媛県テニス協会) 他愛媛ブロック関係者

☆島根ブロックトレセン代表者 **西村 覚** (島根県テニス協会) 他島根ブロック関係者

☆兵庫ブロックトレセン代表者 **佐藤 明美** (兵庫県テニス協会/S級コーチ) 他兵庫ブロック関係者

☆テクニカルスタッフ 池田 亮 (日本テニス協会強化本部ナショナルチームAM)

他、ナショナルチームテクニカルスタッフおよび技術サイエンスタレント発掘委員会委員が随時担当

開催スケジュール (予定)

3ブロック合同西日本トレセン開催日

第1回 7月9日・10日 (デビスカップウズベキスタン戦が行われている会場で開催)

第2回 9月24日・25日

第3回 10月29日・30日

第4回 3月3日・4日

愛媛トレセン開催日

第1回 ~~6月25日・26日~~ 5月28日・29日

第2回 8月5日・6日・7日

第3回 8月12日・13日・14日

第4回 12月24日・25日

第5回 1月7日・8日

第6回 1月14日・15日

島根トレセン開催日

第1回 5月20日・21日

第2回 8月16日・17日

第3回 11月5日・6日

第4回 2月4日・5日

兵庫トレセン開催日

第1回 8月27日、28日

第2回 9月17日、18日

第3回 10月15日、16日

第4回 11月3日、4日、5日、6日

第5回 2月4日、5日

最後に

本事業の実行は日本のテニス界にとって極めて重要なターニングポイントになります。

日本のテニスは、学校、民間クラブという一部の組織によって競技者育成がなされる状態が継続されてきました。

必然的に競技者を育成するためのリソースはそこに集約されており、なおかつ一部の都市部にある大きな民間クラブを除いてはいわゆる「高校生年代」に偏った集中が起きてきたと言って良い環境でした。

世界のテニスの競技者育成はそれよりも若年層に対してリソースが集中しており、より長い育成期間を経ることでトップの競技者を生み出す下地を形成しています。

高校生よりも若い年代という事は日本の環境においては義務教育段階であり、教育的な配慮をすれば、その選手が生まれた、もしくはその時に住んでいる土地に近い場所において、保護者やその土地の人たちに見守られる中で競技者として育っていくことが望ましいことは言うまでもありません。

この環境は、その土地に住むテニスに関わる人達が自ら連帯して生み出す熱意によって支えられている事は言うまでもありません。つまり子供達を身近に取り巻く環境でテニスに関わる人たちの熱意がそのまま世界のトッププレーヤーを生み出すことに直結しているのです。

今や「小さな子供達を身近に取り巻く大人達の熱意」が世界のトップレベルのテニスと直結しなければトッププレーヤーは生み出せない世界になったのです。

本事業はその環境を日本のテニス界に作り出すために日本テニス協会が具体的に取り組む最初の一步になります。現時点では日本のテニス界において、この事業の価値は公に認められていないと言って良い状況であります。

しかし、我々はこの事業が10年先、20年先、50年先に「今とは違った」日本のテニス界を生み出すための「大きな一歩」であると確信を持っています。

新しい事業を始めるにあたっては様々な困難や、面倒、労力が必要とされると思います。しかし、今踏み出している一歩は着実に日本のテニスを前に進めるための一歩である事をこの事業に関わる方達にはご認識頂ければと思います。

是非、皆様のご協力をお願いさせて頂くと共に、日本のテニスをより良くするために共に歩み出す事をお願いさせて頂ければと思います。

日本代表デビスカップチーム監督
JTA強化本部 技術サイエンスタレント発掘委員会委員長

竹内 映二

*付則資料1：3ブロックの選出理由に関して

本事業は要項において記述した通り、totoの助成を受ける事を条件に予算化され、実施されている。totoの助成の認定を受けるために申請するには、申請事業が以下の要件を満たす必要があった。

- 競技者育成プログラムに基づいて実施される事業
- 優れた素質を有する競技者を発掘し、国内において定期的・継続的に育成する事業

この2点の条件を満たす必要があり、対象とするトレセンがJTAの強化指導指針の方針に基づいて既に自主的に運営、定期的開催されている必要性があった。選出した3県のトレセンは既に定期的・継続的に実施されている運用実績があった事が選出の1つの理由である。

これに加えてJTAは専務理事直轄のプロジェクトとして「全国プロジェクト」という組織体制を取っており、この全国プロジェクトにおける活動としてブロックレベルのトレセンの枠組み作りを「ふるさとトレセン制度」という名称を持って行ってきた。

平成22年度にはこの制度が実体化され、認定のための各種条件の整備が行われ、「ふるさとトレセン制度」に応募するブロックを募集、本事業において選出された3つのブロックトレセンが上記「ふるさとトレセン制度」に基づいたブロックトレセンである事を平成22年度内の常務理事会において採決しており、この点も大きな選出理由である。

以上の理由を持って平成23年度は兵庫、愛媛、島根の3県のトレセンを対象トレセンとして選定を行った。

＊付則資料2：toto助成に関して（JTAが受ける公的助成に関して）

本事業は、スポーツ振興くじ（toto）による助成を受けている。スポーツ振興くじは「世界の第一線で活躍する選手を育成したり、子どもからお年寄りまで、だれもが、いつでも、身近にスポーツを楽しめる環境を整備するなど、スポーツ振興施策を実施するための新たな財源を確保する手段として、スポーツ振興投票の実施等に関する法律（平成10年法律第63号）に基づき、平成12年11月から実施して」おり（toto申請の手引きより抜粋）平成23年度のスポーツ振興くじ助成申請に基づき本事業は実行される。

本事業が助成を受けているのはスポーツ振興くじ助成のうち「将来性を有する競技者の発掘育成活動助成」内の「タレント発掘・一貫指導育成事業」となる。

この事業は「JOC加盟競技団体が行う競技特性に基づく将来性を有する競技者の発掘及び一貫指導の下での育成を行う事業」と定義されている。

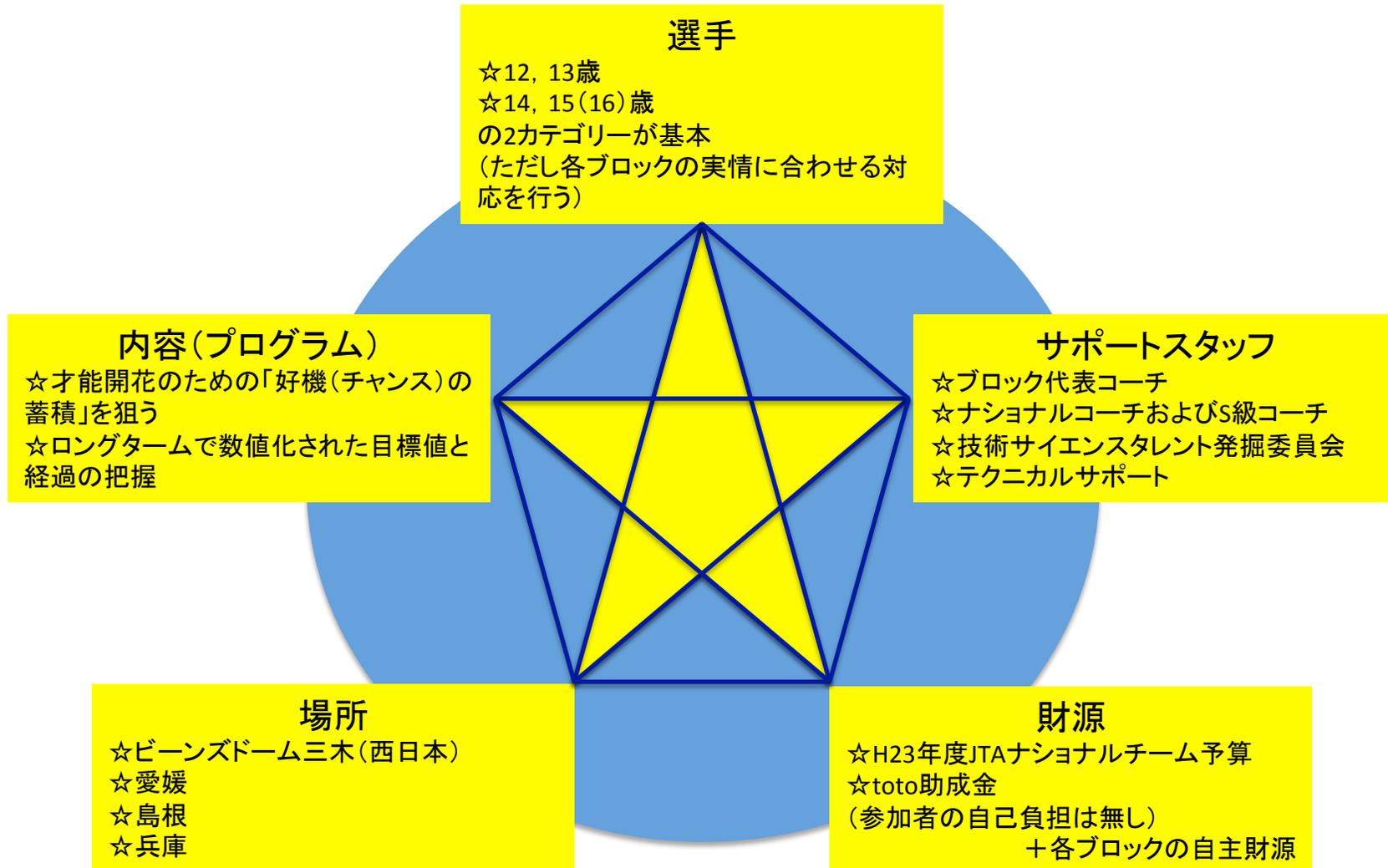
本事業はこの中でも「JOCとの連携により作成したトップレベルの競技者を育成するための指導理念や指導内容を示す競技者育成プログラム（以下「競技者育成プログラム」という。）に基づいて、優れた素質を有する競技者を発掘し、国内において定期的・継続的に育成するための事業」として助成の申請を行っている。

日本テニス協会は平成14年3月にJOCと連携して、上記競技者育成プログラムの具体例として「強化指導指針1」を発行しており、本事業の中核を担っているトレセン制度も「地域トレセン」「都道府県トレセン」という形を提案した強化指導指針に沿った事業となる。

スポーツ振興くじ助成に関する詳しい情報は下記のホームページにて得ることが出来ます。

<http://naash.go.jp/sinko/kuji//tabid/101/Default.aspx>

本事業のイメージ



それぞれの要素が連携、協調し、次世代の日本代表となるスター選手を継続的に生み出すサイクルを作り出す事が目的

集約イメージ

優秀な選手を定期的に集約、ライバルとしてお互いに刺激し合いながらブロックでの課題を再確認

ここを經由して日本代表、オリンピックメダリストへ！

島根

兵庫

愛媛

ビーンズドーム三木

ナショナルレベルのコーチを定期的に派遣、ブロックと強調して真の「ナショナルチーム」を形成し、子供達の負担が少ない競技者育成体制を確立する

双方のベクトルをクロスオーバーさせる事で、より質の高い競技者育成体制の構築を狙う

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 駒田政史

活動日時 7月 8日 ~ 7月 10日まで

対象活動(リストから選択) 西日本トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

駒田政史/中山 芳徳/佐藤明美/吉川真司

ブロック側担当者氏名 重松建宏、西村

スケジュール

8	日	20	時	~	21	時	講義(戦術、ウインブルドン日本人ジュニア活躍報告)
9	日	9	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	~	17	時	デ杯観戦
	日	17	時	~	18	時	オンコート(テニス)
10	日	9	時	~	11	時	オンコート(テニス)
	日	12	時	~	16	時	デ杯観戦
	日	16	時	~	17	時	オンコート(テニス)
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	

今回の活動目的と所感

目的 デ杯を見せて色んなことを感じさせること。

所感 デ杯の雰囲気、試合、選手の緊張感などをまじかで見た興奮は大きかった。錦織選手をはじめ代表の選手達を見て、夢を持ち、モチベーションが上がったことだと思う。試合を見た後に、良いイメージを表現しやすくするためにグリーンボールで練習したことも良い影響を与えるきっかけになったことだと感じた。

次回の予定

成長段階を把握するための体力測定

メディスンボールの投げ方チェック→打球時に体が上手く使えているかチェック

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 竹内映二

活動日時 9月 23日 ~ 9月 25日まで

対象活動(リストから選択) 西日本トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

竹内映二/中山芳徳

ブロック側担当者氏名 西日本のため無し

スケジュール

28	日	21	時	~	22	時	ホテル内講義	戦略・戦術・技術について
29	日	8	時	~	9	時	屋外	ランニング・ウォームアップ・トレーニング
	日	9	時	~	12	時	オンコート	(テニス)
	日	14	時	~	17	時	オンコート	(テニス)
	日	17	時	~	18	時	オンコート	トレーニング
	日	20	時	~	21	時	ホテル内講義	基礎技術について
	日	21	時	~	23	時	スタッフミーティング	スケジュール打ち合わせ等
	日	9	時	~	10	時	オンコート	(ウォームアップ・トレーニング)
	日	10	時	~	12	時	オンコート	(テニス)
	日	13	時	~	16	時	オンコート	(テニス)
	日	16	時	~	17	時	オンコート	(ストレッチ・自重ウエイトトレーニング等)
	日		時	~		時		

今回の活動目的と所感

目的 新しいトレーニングにどれくらい戸惑いなくついてこれるかの確認とトレーニングの変更
所感 オンコートを含めトレーニングが中心になる形での開催は初回となるため、各ブロックの特徴をつかむことができた。特に12才以下と14才以下をミックスする事は課題があると思われる
今後の検討事項であるとして行って良い。またブロック間のレベル差に関しても、憂慮すべき事項であると思われる

次回の予定

それぞれの技術課題をクリアーしてくること。
安全かつ攻撃的なショットをどうマスターするかも課題である。

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 竹内映二

活動日時 10月 28日 ~ 10月 30日まで

対象活動(リストから選択) 西日本トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

竹内映二/吉川真司/井本善友/横山正吾

ブロック側担当者氏名 西日本のため無し

スケジュール

28	日	21	時	~	22	時	ホテル内講義	戦略・戦術・技術について
29	日	8	時	~	9	時	屋外	ランニング・ウォームアップ・トレーニング
	日	9	時	~	12	時	オンコート	(テニス)
	日	14	時	~	17	時	オンコート	(テニス)
	日	17	時	~	18	時	室内トラック	(サーキットトレーニング)
	日	20	時	~	21	時	ホテル内講義	反省会と身につける基礎技術について
	日	21	時	~	23	時	スタッフミーティング	スケジュール打ち合わせ等
	日	9	時	~	10	時	オンコート	(ウォームアップ・トレーニング)
	日	10	時	~	12	時	オンコート	(テニス)
	日	13	時	~	16	時	オンコート	(テニス)
	日	16	時	~	17	時	オンコート	(ストレッチ・自重ウエイトトレーニング等)
	日		時	~		時		

今回の活動目的と所感

目的 新しいトレーニングにどれくらい戸惑いなくついてこれるかの確認とトレーニングの変更
所感 U12の選手が長時間のトレーニングに慣れていない。また新しいトレーニングに
対するストレス等もあり、ミーティングでも話し合われ、西日本の第4回目は14才以下の選手に
絞るのはどうかを検討することとなった。
指導者もその方が的を絞りやすいし、練習内容ミーティング内容等も絞り込みやすい。

次回の予定

それぞれの技術課題をクリアーして行くこと。特にフットワークを強調した。
安全かつ攻撃的なショットをどうマスターするかも課題である。

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 竹内映二

活動日時 3月 2日 ~ 3月 4日まで

対象活動(リストから選択) 西日本トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

竹内映二/井本善友/横山正吾/柏谷好希/結城順史/角陸宗治/松重

ブロック側担当者氏名 西日本のため無し

スケジュール

2	日	21	時	~	22	時	ホテル内講義 学ぶ事について
3	日	8	時	~	9	時	屋外 ランニング・ウォームアップ・トレーニング
	日	9	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	14	時	~	17	時	オンコート(テニス)
	日	17	時	~	18	時	オンコートトレーニング
	日	20	時	~	21	時	ホテル内講義 基礎技術について
	日	21	時	~	23	時	スタッフミーティング スケジュール打ち合わせ等
4	日	9	時	~	10	時	オンコート(ウォームアップ・トレーニング)
	日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	~	16	時	オンコート(テニス)
	日	16	時	~	17	時	オンコート(ストレッチ・自重ウエイトトレーニング等)
	日		時	~		時	

今回の活動目的と所感

目的 試合をたくさんこなす中で自分の課題点を見つける

所感 今回は同時に他の都道府県が集まるイベントと同時開催だったため、試合数を多く行った。また、この中から自ら課題を見つける事を意識させたが、順応は早かったように思える。年に1回程度、こういった形でできるだけ多くの試合を経験させる場を設けるべきであり、ブロック側のニーズも高かった

次回の予定

実施可否に関して未定のため保留

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 竹内映二

活動日時 5月 20日 ~ 5月 21日まで

対象活動(リストから選択) 島根トレセン

活動場所 公園市営庭球場、島根大^学

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

竹内映二、吉川真司、井本善友

ブロック側担当者氏名 西村覚

スケジュール

20	日	15	時	~	17	時	地元スタッフとのミーティング(選手、選考、練習内容等)
	日	17	時	~	21	時	試合と練習 身体の使い方について技術的アドバイス
	日		時	~		時	試合内容について戦術的アドバイス
21	日	9	時	~	10	時	ストレッチとウォーミングアップ、コーディネーション
	日	10	時	~	12	時	オンコート基礎練習
	日	13	時	~	14	時	講義室でセミナー
	日		時	~		時	パイオニア、ビリジーン・キングさんについて
	日		時	~		時	テニスの戦術
	日	14	時	~	17	時	オンコート基礎練習
	日		時	~		時	戦術的練習
	日		時	~		時	復習技術練習
	日		時	~		時	

今回の活動目的と所感

目的 ジュニアの選抜方法、そしてジュニア実力と経験の把握、今後の指導方針

所感 ジュニアのテニス経験に若干の差があり、同じ指導が難しい。

試合経験が浅いと考えられる選手、ボールを明らかに打っていない(練習経験の不足)している選手が多い。

次回の予定

--

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 竹内映二

活動日時 10月 15日 ~ 10月 16日まで

対象活動(リストから選択) 兵庫トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

竹内映二/駒田政史/横山正吾/吉川真司

ブロック側担当者氏名 佐藤明美

スケジュール

15	日	9	時	~	10	時	オンコート(ウォームアップとトレーニング)	
		日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス基礎練習)
		日	14	時	~	17	時	オンコート(テニス基礎練習と個別練習)
		日	17	時	~	18	時	アウトドア(サーキットトレーニング)
16	日	9	時	~	10	時	オンコート(ウォームアップとトレーニング)	
		日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス個別練習と応用練習)
		日	14	時	~	17	時	オンコート(テニス個別練習とマッチ練習)
		日	17	時	~	18	時	反省会を含むスタッフミーティング
		日		時	~		時	
		日		時	~		時	
		日		時	~		時	
		日		時	~		時	

今回の活動目的と所感

目的 兵庫トレセンの状況把握、それぞれの技術習熟度の確認

所感 兵庫トレセンの選手の技術習熟度がいちばん高いレベルにあった。全国レベルの選手が5名ほど確認できた。トータル的に技術力が高い選手が多かった半面、サーブ力が若干落ちるため、サーブの技術練習を多めに行った。

実践練習では、指導者とやれるぐらいのレベルにいたため、コーチとの対戦も多く行った。

次回の予定

フィジカルレベルのアップ、柔軟性の回復をテーマに宿題をこなしてきているかを確認。

サーブを継続して強化していく

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 佐藤 明美

活動日時 11月 3日 ~ 11月 6日まで

対象活動(リストから選択) 兵庫トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

佐藤明美(11月3日5日6日)/吉川真司(11月3日)/五藤健介(11月5日6日)

ブロック側担当者氏名 佐藤 明美

スケジュール

3	日	9時	~	10時	ウォーミングアップ(柔軟、体幹トレ、テニスアップ)
	日	10時	~	12時	オンコート基礎練習(テニス)
	日	13時	~	14時	セミナー
	日	14時	~	17時	オンコート(テニス)
5	日	9時	~	10時	ウォーミングアップ(柔軟、体幹トレ、テニスアップ)
	日	10時	~	12時	オンコート・戦術練習(テニス)
	日	14時	~	17時	オンコート・マッチ練習(テニス)
6	日	9時	~	10時	ウォーミングアップ(柔軟、体幹トレ、テニスアップ)
	日	10時	~	12時	オンコート基礎練習(テニス)
	日	13時	~	14時	セミナー
	日	14時	~	17時	オンコート・戦術練習(テニス)
	日	17時	~	18時	トレーニング

今回の活動目的と所感

目的 ストロークにおける正しい身体 の使い方。フットワーク強化。正しいポジションの確保。

所感 今回は、①バランス②フットワーク(正しい場所に後ろから素早く入る)③身体のひねり④反応・スピード(正しい1歩目の出し方)をパワーポジション・スプリットステップを意識しながら取り組んだ。後半はクロスとストレートの違いを説明し、そのリスクとセンターポジションの違いを理解し、小さなコートから大きなコートへと難易度を上げながら、グリーンボールなども活用し繰り返し練習を行った。その必要性は少しずつ理解し、日常的に取り組んできた様子がうかがえる。

次回の予定

引き続き基本動作の確認。サービス・リターンも取り入れていきたい。

どうしても無理な体勢から1球で終わらそうとする傾向があるため、ポジショニングやいかに相手を動かすか・相手にリスクの高いショットを打たせるかという点においてももう少し詳しい説明していきたい。

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 駒田政史

活動日時 2月 4日 ~ 2月 5日まで

対象活動(リストから選択) 兵庫トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

 駒田政史(ナショナルコーチ)/佐藤明美(S級コーチ)/江口良和(S級コーチ)/五藤健介(S級)

ブロック側担当者氏名 佐藤明美

スケジュール

3	日	9	時	~	10	時	ウォーミングアップ(柔軟、体間トレ、テニスアップ)
	日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	~	16	時	フェドカップ応援
	日	16	時	~	17	時	オンコート(テニス)
4	日	9	時	~	10	時	ウォーミングアップ(柔軟、体間トレ、テニスアップ)
	日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	~	19	時	フェドカップ応援
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	

今回の活動目的と所感

目的 日本代表の戦いを見てトップ選手になるために必要な事を学ぶこと

所感 目の前で世界のトップレベルの試合を見ることができ、選手達は興奮と喜びが大きなモチベーションとなったはずである。特に伊達および森田選手の正確なストローク力は衝撃的で、見習いたい点ばかりであった。低年齢の時期にこのような将来の夢につながる機会を与えることを続けていきたい。

次回の予定

 前回課題にしている基本動作、打点の徹底。今回目の当たりにしたサーブの強化。ポジショニングの理解と戦術についても触れていきたい

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 駒田政史

活動日時 2月 11日 ~ 2月 12日まで

対象活動(リストから選択) 兵庫トレセン

活動場所 ブルボンビーンズドーム

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

 駒田政史(ナショナルコーチ)/佐藤明美(S級コーチ)/神谷勝則(S級コーチ)

ブロック側担当者氏名 佐藤明美

スケジュール

3	日	9	時	~	10	時	ウォーミングアップ(柔軟、体間トレ、テニスアップ)
	日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	~	16	時	デビスカップ応援
	日	16	時	~	17	時	オンコート(テニス)
4	日	9	時	~	10	時	ウォーミングアップ(柔軟、体間トレ、テニスアップ)
	日	10	時	~	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	~	19	時	デビスカップ応援
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	
	日		時	~		時	

今回の活動目的と所感

目的 日本代表の戦いを見てトップ選手になるために必要な事を学ぶこと

所感 目の前で世界のトップレベルの試合を見ることができ、選手達は興奮と喜びが大きなモチベーションとなったはずである。特に2m9cmの世界1のサーブ力、錦織選手の正確なストローク力は衝撃的で、見習いたい点ばかりであった。低年齢の時期にこのような将来の夢につながる機会を与えることを続けていきたい。

次回の予定

 前回課題にしている基本動作、打点の徹底。今回目の当たりにしたサーブの強化。ポジショニングの理解と戦術についても触れていきたい

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 駒田政史

活動日時 5月 28日 ～ 5月 29日 まで

対象活動(リストから選択) 愛媛トレセン

活動場所 松山中央公園

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

 駒田政史/五藤健介/横山正吾

ブロック側担当者氏名 重松建宏

スケジュール

28	日	9	時	～	10	時	仮設コート設営、ウォーミングアップ
	日	10	時	～	12	時	オンコート(テニス)
	日	13	時	～	16	時	オンコート(テニス)
	日	16	時	～	17	時	オンコート(フィジカルトレーニング)
29	日	9	時	～	12	時	講義(FHストロークの動作説明、コミュニケーションスキル)
	日	13	時	～	17	時	フィジカルトレーニング、体力測定
	日		時	～		時	
	日		時	～		時	
	日		時	～		時	
	日		時	～		時	
	日		時	～		時	
	日		時	～		時	

今回の活動目的と所感

目的 選手の状態把握、基礎となる体の使い方を習得するためのメニューの落とし込み

所感 メディスンボールを使つてのメニュー(フォアハンド、サーブ)では、メディスンボールが正しく投げられない選手が多く時間を要する。

 体幹、バランスの弱さが目立ち、テニスにもその影響が出ている。

 テニスを始めた年齢が8歳前後の選手が多く経験値が低い

次回の予定

 成長段階を把握するための体力測定

 メディスンボールの投げ方チェック→打球時に体が上手く使えているかチェック

平成23年度 toto助成事業
モデルケーストレセン構築事業 西日本トレセン活動報告書

報告者氏名 竹内映二

活動日時 8月 5日 ~ 8月 7日まで

対象活動(リストから選択) 愛媛トレセン

活動場所 松山市総合運動公園

ナショナル側(派遣スタッフ)氏名(全て記入・フルネーム)

竹内映二／横山正吾／井本善友

ブロック側担当者氏名 重松建宏

スケジュール

5	日	10時	～	11時	オンコート(ウォームアップのチェックとフィジカル)
	日	11時	～	12時	オンコート(テニス基礎練習)
	日	13時	～	16時	オンコート(テニス応用練習)
	日	16時	～	17時	コート外(持久カトレーニング)
6	日	10時	～	11時	オンコート(テニス基礎練習)
	日	11時	～	12時	オンコート(テニス応用練習)
	日	13時	～	16時	オンコート(テニス応用練習)
	日	16時	～	17時	コート外(持久カトレーニング)
7	日	10時	～	12時	オンコート(テニス応用練習)
	日	13時	～	17時	オンコート(テニス応用練習)
	日		時	～	時
	日		時	～	時

今回の活動目的と所感

目的 前回は雨のためほとんどが講習会となったため、全体の把握と弱点の指摘
所感 指導者が少ない。全体的に柔軟性が欠如している。センスがある子どもが数人いるが、練習を十分できていない。全体のレベルは低いながら競い合える実力差である。
のんびりとした性格の子どもが多く、のめり込ませることに努力した。
小さい子どもにボールを落とす傾向が見られる。サーブとレシーブに問題あり。

次回の予定

サーブとレシーブの指導に重きを置き、早くボールを取ることの重要性を説いていく。

